

BOOK TRAIN

ブックトレイン

千代田図書館
学校支援担当発行
冬の図書だより
2015
中学生版

中学生の皆さんにおすすめの本を紹介します。



のマークは気軽に読める本、



のマークは読みごたえのある本です。



『長い長いお医者さんの話』



カレル・チャペック／作 中野 好夫／訳 岩波書店

ようこそ、魔法使いや妖精も普通に暮らしている世界へ。

表題作の魔法使いの喉に詰まった種を取るために集まった医者達の不思議な話を始め、妖精の助けを借りて宛先不明の手紙を届ける郵便配達人の話など、9話を綴った童話集。チェコ出身の作者が織りなす不思議でユーモラスな世界が、軽快なテンポで語られる。ある時は温かく、ある時はパンチが効いてちくりと痛い…。チャペックの世界にぐいぐい引き込まれていくこと間違いなし！



『ワンダー』



R・J・バラシオ／作 中井 はるの／訳 ほるぷ出版

ページの先へ進むほど、感動が止まらない！

オーガストが初めて学校へ行ったのは10歳の時。その理由は、オーガストにひとつだけ他の子どもと違うところがあったから。入学からの1年間はさまざまな事件が起こり、そのたびにオーガストの心は揺れた。自分がそのままの自分であることは、決して簡単なことではないけれど…。最後の最後までこの本を読んでほしい。そうすればきっと、オーガストに、その家族や友だちに会ってみたいくなるはず！



『エルトゥール号の遭難 トルコと日本を結ぶ心の物語』



寮 美千子／文 磯 良一／絵 小学館クリエイティブ

喜びと感謝が、新たな喜びと感謝に連鎖していく…。

1889年オスマン帝国の軍艦エルトゥール号は大日本帝国に勲章を手渡すために出航する。しかし、その航海は困難極まるものであった。11ヶ月かけ、やっとの思いで日本に到着。任務を終え、家族の待つ祖国へと向かうのだが…。120年以上も前のアジアの西の端から来た船乗りたちと、アジアの東の端の小さな島の漁民たちの素朴でささやかな物語。





『雪は天からの手紙 中谷宇吉郎エッセイ集』



池内 了／編 岩波書店

「平凡な世界の中に不思議を感じることも重要な要素であろう」

慰^{なぐさ}み半分に始めた雪の研究から、氷雪学という科学の分野を確立した、中谷宇吉郎のエッセイ集。『科学を尊重せよ』ということと『科学を警戒せよ』ということは、両方とも本当なのであろう。の言葉通り、科学のおもしろさを説く話から、他の科学者が非科学的と一蹴^{いっしょく}するような「未確認生物」の存在をも認めるかのような話まで。理系文系に関わらず、オススメできる1冊。



『白をつなぐ』



まはら 三桃／著 小学館

「真っ白な気持ちで、力強い一歩一歩を刻みつけてくれ」

1月、広島で開催される都道府県対抗男子駅伝大会を知っていますか？福岡県代表に選出された中学生から社会人のランナー、監督やコーチたちは、合宿中に宛名のない白紙の手紙を拾う。熊沢監督は白紙の手紙になぞらえ、この大会のテーマは「白」だ、と言った。初^{うい}々^{うい}しい中学生たち、大人のつらさを抱える社会人ランナー……。登場人物それぞれの葛藤^{かっとう}や成長が描かれた、この季節にぴったりのさわやかな駅伝の物語。



『共に生きるということ』



緒方 貞子／著 PHP研究所

～とにかく生きる～ 究極の選択に迫られたときあなたは どうする？

緒方貞子さんは、それまではヨーロッパの男性政治家が務めていた国連難民高等弁務官に、1991年、初の女性、初の学者出身者として就任^{しゅうにん}した日本人。長年の難民支援活動を通して得た哲学、世界で起きている難民問題を易^{やさ}しい言葉で語る。決して遠い世界の話ではなく、身近な話として、さまざまな制約のある中で私たちはどう対処すべきかを考えさせられる。インタビューをもとに構成された1冊。



『跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること』



東田 直樹／著 イースト・プレス

ステレオタイプな自閉症へのイメージが、爽快なまでに一掃^{いっそう}される

「自閉症」は、生まれつきの脳機能障害で、人とのコミュニケーションや日常生活にさまざまな難しさが生じる。会話ができない重度の自閉症である筆者は何を思い、感じながら日々生活しているのだろうか。理解されがたかった自閉症者の内面を綴^{つづ}った文章には、想像もつかない豊かな世界が広がっていた。心に留めておきたい瑞々^{みずみず}しい言葉が詰まったエッセイ集。

